

## 2 学期勉強の仕方

### 1. 初めに

⇒ 本日より後期の授業が開始します。前期と異なり、後期は受験までに時間が残り少なくなってきましたから、前期とは勉強の方法を変えていく方がよりよいです。

前期は「徹底的な理論の理解」を追い求めました。それは、「初めは道具を持っていないので、まずは道具をそろえる」こと、そして「化学のものの考え方を身につける」の2点を目的として、ただただ問題を解けるようにするだけでは、受験のときには忘れてしまっているという考えがあったからです。（おそらく、夏の間にプリントを見返して復習をしていただいた方は、プリントの内容が授業で受けた時のように思い出されたことと思います。）

しかし、後期は理論の理解は、前期に培った思考の仕方を使って、予習の段階である程度やってもらい、問題をどのように解いて点数をもぎ取りに行くのかに重点を置いてお話していきます。

#### ① 次の授業の内容をテキストを読んで理解し、基本チェックを解いてくる（1~2 h）

⇒ 予習の段階でテキストおよびプリントの内容に目を通しておいてください。またその理解が十分であるかどうか確認するために基本チェック問題も解いておいください。予習していただいた内容をより深める講義をまず授業では実施し、その翌週、演習問題の解説を行います。

授業では難しい内容の説明と、演習問題の解説を行います。間違っても、「**すべての問題が予習段階でできてる**」必要はありませんので、わからないならわからないでいいので、完璧に解こうとしないでください。予習は以下の進捗表を参考に進めてください。

期	回	①	②	テスト
II	1	オリエン・電離平衡	酸化還元の定義	オリエン
	2	<b>【前期】演習20・25・26</b>	<b>【前期】演習24・27・28</b>	周期表
	3	酸化還元反応式・滴定	イオン化傾向	イオンの化学式
	4	<b>演習1・2・3</b>	<b>補充問題1・演習4・電池</b>	化合物①
	5	<b>演習5・6・7</b>	電気分解	化合物②
	6	<b>演習8・9・10</b>	化学反応論	中和反応
	7	<b>演習11・12・13</b>	溶解度積・気体の製法	遊離反応
	8	<b>演習15・16</b>	17族	半反応式
	9	<b>演習28・16族</b>	<b>15族・14族</b>	酸化還元反応
	10	<b>演習23・24</b>	<b>演習25・26・27</b>	沈殿生成反応
	11	1族	2族・Al	錯イオン生成反応
	12	<b>演習17・18・19・20</b>	遷移元素	分解反応
	13	<b>演習21・22</b>	予備	反応式ランダム

#### ② 授業:授業内で 100 パーセント理解して帰る(大原則)

⇒ ノートを取りあえずとって、家帰ってから読み返そうなんて考えは甘いです。授業はノートもとりますが、言葉で説明もついているのが授業の場です。その場で理解して帰ってください。（質問対応は授業前後 30 分は受け付けます。）

#### ③ 復習:類題を解く(1h~2h)

⇒ 復習は、授業で身に着けた解法を、自分できちんと運用できるか確認する場でなければなりません。復習問題を指定しておきますから、必ず復習問題を解いておいください。

### 2. 暗記テスト

⇒ 前期にやっていたテストと同様な最低限の道具をそろえるテストを行っていきます。左の表のテストの欄を参考にして、別冊の冊子の該当範囲を勉強してきてください。

### 3. 確認テスト

⇒ 前期同様、確認テストを行います。前週の授業内容の講義および演習問題の内容を問う問題で、演習問題の類題を 2 題用意します。授業のある日は忙しいので、必ず「**授業の受けた週の週末の土曜か日曜にテスト受験・自己採点・やり直しをしたうえで、翌週の授業にて提出**」してください。

### 4. 過去問に関して

⇒ 数学と英語に関してはもう過去問演習を始めてもよいと思います。（担当講師の指示があればそちらに従ってください。**化学に関しては、9 月からではまだ早いです。10 月の最終週からのスタートがよいでしょう。**

理由としては、① 理論が1周終わってから過去問で苦手をあぶりだせる、② 今まで英語と数学につかった分、9 月~10 月にじっくりと化学の勉強をしてから臨めることが挙げられます。

過去問はあなたの志望に大学に向けての最も素晴らしい問題集です。無駄に使わないように、すぐにやりたい気持ちは分かりますが、我慢してください。

### 5. 理論化学の演習課題

⇒ 後期は理科の時間ですから、私も本気で課題を出していきます。

**1 日に 2 題ずつ、一週間で(日曜を除いて)6 日分の 12 題を毎週プリントにし、私の手書きの解答付きでお渡します**ので、**渡された週にやっておいください**。該当範囲は、まずプリントやテキストをみて復習してからやった方が学習効果はよくなります。とりあえずは6 週やってみて、その先は要望があれば有機か無機で継続して行います。

回数	内容
①	原子の構造・電子配置・周期表・周期律・物質質量・反応量計算
②	電気陰性度・化学結合・分子・結晶格子
③	気体の基本・蒸気圧・実在気体・溶解度
④	希薄溶液の性質・熱化学・反応速度論
⑤	化学平衡・酸と塩基の定義・pH・電離平衡・中和滴定
⑥	酸化還元・イオン化傾向・電池・電気分解